

明日にむかって

発行/社会福祉法人 陽光会 陽光保育園 編集/陽光保育園「明日にむかって」編集委員会
発行日/2004年12月3日 住所/東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎03(3956)1068

46号

11月19日、大谷口出張所にて「大谷口九条の会」(仮称)が、年齢も職業もさまざまな28人の参加者のなかで発足されました。呼びかけ人からの「憲法を無視した海外派兵の強行、さらには今の憲法は時代にあっていないと言って変えようとしている現状があるが、戦争はしないと決めた平和憲法を守るために声をあげなければ、子どもたちに申し訳ない!」という挨拶のあと、参加者一人一人が「大谷口九条の会」にかける想いを語りました。/イラクへの海外派兵によって日本は加害者になってしまったのでは? /高校の現場では、平等という言葉がなくなり、対語である差別がまかり通らうとしている。そして平和がなくなり、戦争が…… /憲法は守るものではなく実現させるもの。一条から百三十条まですべてを/子どもたちを加害者にも被害者にもしてはいけない! /等々たくさんのお話があり、早急に「大谷口九条の会」を広げなければという気持ちを確かめました。(T-R)

陽光保育園★最近の行事から

運動会

10月10日、板橋第十小で、今年保護者とともに楽しめる種目にしようと工夫しました。



▲上:親子でおどる玉入れ。はりきる4~5歳児/下左:2~3歳児は親子で大玉ころがし/下右:4~5歳児の鯉の滝のぼりは、大人の腕の上を跳ねながら移動するスリリングさがたまらない。



▲11月5日、1歳児は光が丘公園へ。日だまりの中でたくさん遊びました。



▲左:11月18日、2歳児も光が丘公園へ。木の枝が格好の遊び道具に/右:11月11日、3歳児は西山高取へ初めての山登り。



▲上左:11月9日、4歳児は金勝山へ。列をつかって山登り/右上:11月10日、5歳児は官ノ倉山に挑戦。急な鎖場もなんのその/右下:難所も克服し頂上で記念撮影。みんな晴れやかな笑顔!

園児募集

- 0歳児=6名、1歳児=4名
- 2歳児=2名、3歳児=3名
- 4歳児=1名

*入園ご希望の方は、区保育課か当園までお問合せください。



国は、三位一体改革の名のもとに、現行の保育制度を変えようとしている。現行の保育制度では三つの責任と義務があります。①児童福祉法により、保育・子育てにおける国・自治体の責任(児童福祉法2条)、市町村の保育の実施、保育の保障義務(児童福祉法24条)、②最低基準を定め、遵守する義務、③国、都道府県、市町村の財政保障義務です。つまり、「どこでも、いつでも、だれにでも、一定水準以上の保育保障ができる」ということです。ところが、今、国の国庫補助負担金削減に関して、全国知事会など地方六団体が、税源移譲と引き換えに、三・二兆円の「国庫補助負担金等に関する改革案」を提出しました。そのなかに、民間保育所運営費、施設整備費も含まれています。昨年、補助金削減一兆円のもとで、公立保育園の運営費の一般財源化がなされました。今度は、民間保育園の運営費の一般財源化です。

一般財源化で、どっちなる保育園

一般財源化というのは、保

子どもたちの未来を守るために

真の子育て支援対策を

今、福祉の根幹が崩れようとしています

園のことでは、今までは「どこでも、いつでも、だれでも、一定水準以上の保育保障ができる」保育のためにつかうように国から下りてきたお金(特定財源)を、今後は自治体が自由に何にでも使ってしまう(一般財源)ということになります。自治体の裁量でどうにでもなるということになり、最低基準がなくなり、子どもの処遇に格差が生じ、保育の地域格差、保育水準の低下にもつながってきます。板橋区はまだ一般財源化されていない民間の認可保育園に公立保育園を委託しようとしていました。板橋区の持ち出しが少なくなるからです。ところが、今民間保育園の運営費も一般財源化するという案ができて、民間委託しても財政上は意味がなくなってしまう

東京都も大幅に予算を削減しようとしています

今年(二〇〇四年)四月、東京都は私立保育園の人員費補助を大幅に削減しました。そして今度は、認可保育園(公立も私立も)に対する独自の補助(都加算補助)の削減と見直しの検討

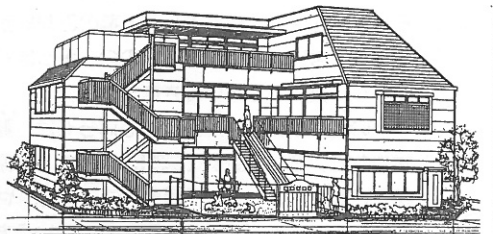
遠足

11月5日、1歳児は光が丘公園へ。日だまりの中でたくさん遊びました。

園舎建替え・進行状況報告

戦後、青空保育園として地域の中で誕生した陽光保育園は、建物かなり老朽化してきました。平成8年に園舎の耐震検査を受けた折、C・Dランクと診断されたのですが、平成9年に一部補強をしただけで、現在に至っています。また阪神大震災後改められた建築基準の耐震・耐火基準にも適合していません。安全な建物での保育の実現のために建替えが急務と考え、17年度の施設整備補助協議書を10月末に東京都に提出しました。

新しい園舎の基本設計は、「子どもたちが主人公の保育園」「安全で安心できる保育園」「まちと共にある保育園」の3点の方針に沿って作成しました。建替え後、新しく行う事業としては、①待機児対策の一役を担うために乳児の定員増(1歳児5名増・2歳児4名増)、②父母の労働実態に合わせ延長保育時間を現在の1時間から2時間に延ばし、③地域の子育て支援を目的に「一時保育」の実施、などを行います。また、子どもたちが保育園で生活する時間が長くなっているため、落ち着いた生活が出来るよう環境づくりに検討を重ねています。



新園舎(基本設計) ※図は第一次案
鉄骨造3階建/延べ面積462.11㎡(33.87㎡増)
総工事費:210,084千円 工事費内訳(予定額):国・都補助金89,697千円/借入金52,000千円/自己資金68,387千円/寄付金目標額:20,000千円(一口5,000円)で4,000口目標。2006年4月末まで)

建築資金専用の新しい口座を開設いたしました。今後の募金はこちらに振込んでくださいますようお願いいたします。
郵便振替口座 00140-0-260468
口座名 陽光保育園建設委員会

【保育制度を守れ、11・3大集会】に参加
11月3日、日比谷野外音楽堂には色とりどりの幟や横断幕が掲げられ、全国から2800人もが集まりました。陽光保育園からは、父母、理事、職員、子ども、あわせて21名が参加。集会実行委員長から「小泉内閣と地方6団体が11月半ばに進めようとしている『三位一体改革』は、子どものために必要な国の補助金を1.5兆円も削る内容。署名と抗議ハガキの運動をあげましょう」と訴えがありました。集会の最後は、「子どもいじめの鬼退治」の看板を掲げ、鬼の衣装をまとった関西の保育士や、エイサーを披露しながら参加した群馬の保育団体などと一緒にパレードをして、道行く人に訴えました。「保育情勢は大変だけど、運動は楽しくなくちゃ広がらない! 続かない!」という集会の流れに勇気と元気をもらってきました。(保育士 徳留 人美)



11月20日、大城さんのご厚意により、園舎建替えのためのチャリティーコンサートを陽光保育園ホールで満員のお客さまを迎えて開催。大城さんのソロ演奏のほか、大城さんの演奏をバックにした佐藤文朗さんの詩の朗読、そして「みんなて歌おう」コーナーもあって、楽しいひとときを過ごしました。皆様のご協力により、約12万円を建築資金とさせていただきます。心からお礼申し上げます。

ごあんない
◎陽光保育園父母会&後援会主催
◆新年会◆
とき 1月8日(出) 19時
場所 陽光保育園ホール
*新年を祝い、楽しくつどいましょう。一品持ち寄り。飲み物は用意します。コップ、箸、皿を持参してください。

◎陽光保育園後援会主催
◆新春落語会◆
とき 1月22日(出) 19時
場所 陽光保育園ホール
入場料 大人11200円(前売り1000円)/小中学生5500円/幼児無料
*柳家さん光さんをお呼びして久々の落語会です。思いっきり笑い、いい年の幕開けにしたいもの。中休みに甘酒、日本酒をふるまいます。

◆学習会◆
とき 2月26日(出) 19時
場所 陽光保育園ホール
講師 斎藤貴男さん
*「カルト資本主義」「パプルの復讐」「精神の瓦礫」など話題作を次々と世に送りだしているフリージャーナリストの斎藤貴男さん。国、都の政策と保育問題との関係など興味深いお話を聞けそうです。

特集

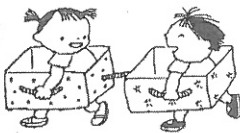
ヒトが人間になるとき

その8 「遊び」と発達② 2歳児・3歳児

0歳児、1歳児においては「遊び」によって相手に手を理解するようになり、2歳児になると、言語も増え、大人や友達とのかわりも密接になってきます。陽光保育園では、無理をさせたり押し付けたりせず、その年齢にあった遊びを自ら楽しんでやるよう、見守り、手助けをしています。

2歳児 遊びのなかで 自我を拡大させる

2歳児の保育で一番大切にしていることは、「自分で自分の世界を広げていくなかで、自我を充実させていくこと」です。1歳後半に、自分でする喜びを積み重ねてきた子どもたちは、ますます「自分で」と世界を広げていきます。失敗したら、できるまで、何度でも。達成感を味わったら、「もっともっと」「いっぱい」と領域を広げていきます。



2歳児の部屋には、押し入れの下をままたごコーナーにしたスペースがあります。あひる組12人の子どもたちが一斉に入るとはできず、3〜4人でいっぱいになります。ある日、Aくんがそこで、ままたごの道具をいっぱい並べて遊んでいました。そこにBちゃんが「入れて」とやって来ます。

すると、「ここは、Aの家なんです。だからだめ」と追い返されます。CちゃんやDくんも「入れて」というものの次々に「だめ」と追い返され、泣いて保育士に訴えに来ます。保育士がAくんにお友だちも入りたいんだって」と伝えると、「ここは全部Aのなの。だってAのお家だもん」と答えます。Aくんの思いもわかりますが、みんなだまって遊びたいのです。そこで、「わかった。じゃあ、みんなはこっちで遊ぶからいいよ」と、Aくんと違う場所で遊ぶことにしました。しばらく考えていたAくんは、急に泣きながら「みんな入っていいよ。一緒に遊ぼうよ」と声をかけてきました。そして、みんなが戻ってきて一緒に遊び始めると、笑顔が戻りました。

おうちでは 2歳児

相撲、サイレン、お買い物ごっこ

食事の支度などしているときは遊びの相手になってやれないので、どうしてもビデオとかに頼ってしまいます。でも、時間に余裕のあるときは思いっきり遊んでやります。最近の遊びはお相撲、サイレン、お買い物ごっこです。お相撲は普通に「はっけよ〜い、のこった!」と言ってから取り組みます。負けず嫌いの大聖は2回に1度くらい勝たせてやらないと取り組みが永遠に続きそうになります。サイレンというのは某テレビ番組で紹介されていた遊びです。「パトカー(手拍子2回)、ファンファン」「消防車(手拍子2回)ウ〜、ウ〜」「救急車(手拍子2回)、ピーポ」。私が車の種類を言って手拍子を2回すると、大聖がサイレンの音を真似ながら両手を上に挙げてクルクル回します。サイレンの音を間違えると「ブブブ」です。たまにいたずらして「クレーン車!」とか言うと、音がわからないので、笑ってごまかしています。お買い物ごっこはそこら辺にあるものすべてが商品です。大聖はお店のおじさん。この間はみかんを1個手にとって「これくんださ〜い!」と言ったら、「せん、はっぴやくえん〜しゅ」と言われ、ズッコけてしまいました。(2歳児クラス・大聖の母 大塚恵子)



おうちでは 3歳児

何より大好きプロレスごっこ

岩田空、3歳7か月。このころの子どもにとって、パパやママにもみくちやにされるプロレスは、どんなに設備の凝った遊園地より面白いのではないだろうか。今日も空の高い笑い声が部屋中に響く。最近のお相手は、ママが妊娠中ということもあり、もっぱらパパだ。「シュワッ!」「キック」「変身」と、次から次へと奇妙な動きを加えながら、3倍ほど大きいパパに向かって攻撃を挑む。短い手足はパパに届いても効き目なし。たいていは逆さ吊りにされたり、ぐるぐる巻きにされたり、布団の上にとどんと投げ出されたり。それでも「〇〇攻撃!」と新しい技で敵にぶつかっていく。パパもわざと倒れることがしばしば。そんなときは空の演技指導が入ることも。「ちょっと待って、まだ倒れて!」「ちがう、ここで倒れて」。ママとの友情劇もある。「ママ、いっしょにやっつけよう。目を合わせて鎖き合い、示合わせて同じ技で攻撃!」いつまでも懲りずに戦うので、パパもママも息が上がってしまう。それでも、空の笑い声を聞いているとなんて幸せなんだろう、この瞬間をいつまでも心に焼き付けておきたいと思う。(3歳児クラス・空の母 岩田まゆ)



3歳児 3歳児の遊びは 生活そのもの

3歳児の子どもたちは、「遊び」を糧に生活をつくっていきます。「よく食べる・よく眠る・よく遊ぶ」という日常生活のなかで、少しずつ自分のできることが増えていきます。「お散歩に行くから、靴を履くんだ」というように先を見通して行動することができるようになったりします。「自分でできる」ことで自信をつけていき、「みて」と目をキラキラさせて表現します。そんなときには「すごいね」と共感して受け止めていくことで、自己表現することへの安心感が培われ、パワーあふれる3歳児の世界が広がっていくのです。

3歳を迎えるとき話もどんどん増えていき、仲間と世界を楽しみながら、遊びが展開してきます。大好きな友達をたくさん作って、一緒に遊ぶ喜びを満喫します。ごっこ遊びも自分たちの知っている言葉を使って思いを伝え、イメージを膨らませてお母さん・お父さん・赤ちゃんとになりきり友達とのやりとりを楽しみます。たまたかのごっこも大好きになり、加減が分からずケンカになってしまったり、保育士が仲裁に入り、思いを聞くことで「ごめんね」「いいよ」と伝え合い、また遊びが始まります。集団遊びも少しずつ広がっていきます。鬼ごっこ、オバケごっこ、シッポとり遊びなど、走ったり体を動かして遊ぶことも大好きになり、簡単なルールの遊ぶ遊びも分かるようになってきます。シッポとり遊びでは、紙テープのシッポをお尻に付けてネズミになり、そのシッポをネコが取ります。ネコ役が夢中で追いかけるので、逃げるネズミ役も必死です。シッポを取られてしまうと、くやくして泣いてしまったりして遊びが中断してしまうこともあります。ママが大好きなので、時には大人がネズミ役になり、子どもたちがネコ役になったりしながら楽しんでいきます。「みんなと遊ぶのが楽しい」と思える気持ちも育つよう、保育士も子どもとともに楽しんでいきます。3歳児は自分では一人前、客観的にみると半人前とされています。そんな「自分ですごい!」と思える前向きな気持ちを大切にしながら保育することを心がけていきたいと思っています。(3歳児クラス担任 東城 史代)

「食べられること」の ありがたさ

津田良輔

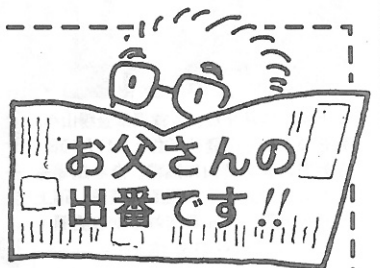


1945年8月14日、埼玉県の越生町は、薄曇りの蒸し暑い日だった。町の小学校には陸軍士官学校の生徒が駐屯して、行軍演習の道すがら、縁側で遊んでいた僕ら兄妹に、生徒のひとりが「明日、天皇陛下の大切なお話があるそうだよ」と教えてくれた。ラジオがなかったので、翌日15日の昼ごろ、母は街道筋の時計屋に玉音放送を聞きに行った。6歳の子どもにも、どうやら戦争が終わったらしいということには分かった。

戦争にまつわる記憶は、そのほとんどが食料に関するもので、疎開中も飢餓すれすれの状況だった。金とは別に、母が東京から持ってきた着物などと交換にわずかな食料を手に入れるのがやっとで、あるときなどは、馬鈴薯を畑から採る約束を農家からとりつけ、バケツを持って母子で畑に行くと、すでに収穫はすんでおり、わずかに鶉(うずら)の卵程度の大きさの小芋と茎のみが散乱していたが、それでも口に入れればよいと持ち帰ったものの、水っぽく、そのうえ筋ばかりで、さすがに食べることはできなかった。

その後東京に戻ってからもしばらくは、麩やトウモロコシ粉、冷凍甘薯など、今なら家畜の飼料になるものが常食だった。厳しい食糧事情で、腹が膨れ、鼻の頭が黄色くなって、やがて学校にも来なくなり、しばらくすると栄養失調で死んだ、という友達の話も聞いた。近所では、経済警察に買い出しの米を全部取り上げられ、幼子を残して母親が「ネコいらず」という殺鼠剤を飲んで自殺した事件もあった。

あれから60年近くになる。カロリー摂取過剰が問題になり、期限切れとして大量の食料が廃棄され、「食べられる」ことのありがたさも忘れがちである。そして何よりも、戦争の世紀であった20世紀を反省することもなく、なお戦火、流血、貧困、飢餓の惨状が世界各地にある。それだけに、戦争の上に立った基本法をもつこの国の国民として、紛争解決の手段としての戦争がとんでもないアナクロニズムであることを伝えていかなければなるまい。(坂橋区在住/卒園児祖父)



「パパは「たくさん子育てしてる」? 私、樹理。うちのパパが、この欄を書くように頼まれたんだけど、うまく書けないみみだから、私が書くことにしたの。」 「お父さんの出番」ということらしいけれど、あまりうちのパパには出番がないんだ。特に夜は、私が起きている時間にはほとんど家にいないんだもん。だから、夜はママの出番。でも、朝はパパ。前の日、何時に帰ってきてても朝ごはんをつくったり、私を保育園に送るのはパパの仕事なんだ。遺品の弁当もパパがつくる。 たまに夜早く帰ってきたときは、サッカーの中継がなければ、絵本やごっこ遊び。テレビやビデオはあまり見せてくれないけど、その分、たくさん絵本を読んでもくれる。 だからパパは、「おれはたくさん子育てしてる」とうぬぼれている。でも、ママの評価は低い。だって、パパはやるのが大雑把だから。野菜の切り方も大きいし、洗濯してもシワが多い。よくママに文句を言われてるけど、仕方ないかも。 時々、サッカーや野球を覚えてくれる。でもすぐにパパは本気になるから、私が疲れちゃう。4歳児相手に本気になるなんて、変な人だよ。 最近パパがよく話しているのは、「戦争をしないと決めた憲法九条は、樹理の世代に無傷で伝えたい」ということ。「平和が一番」がパパの持論なんだ。 あと何年かしたら、私がパパのことを「ウザイ」とか「汚い」と言うんだろうなあって心配しているみたい。遠い将来のことはわからないけど、また数年は遊んであげよう。だからよろしくね。(4歳児クラス・樹理の父 高橋正樹)